

教育委員会だより

「自主」と「共生」～自己肯定感～

令和3年6月23日号 多治見市教育委員会 教育総務課

わたしの主張2021 多治見市大会

今年度は「わたしの主張2021 多治見市大会」を6月19日（土）に実施することができました。コロナ対応により、市内の全中学校から、1名ずつ選出された代表生徒による主張（録画と原稿）を基に審査会を開催しました。

本来ならば、青少年まちづくり市民会議が主体となって、各校区で選ばれた小・中学生の考えを、広く地域の方々に発信する貴重な行事です。

来年こそ、本来の姿に戻ることを願います。各中学校の代表者と主張の題名は以下の通りでした。

陶 都 中	3年生	加藤 愛雪さん	自分の「意思」で誰かの希望に
多治見中	3年生	吉田 佳保さん	「自分らしさ」を堂々と
平 和 中	3年生	伊藤 彰啓さん	「人も元気！まちも元気！」
小 泉 中	3年生	山本みつきさん	「ご恩がなくとも奉公を」
南ヶ丘中	3年生	加藤 理桜さん	発達障害に理解を
北 陵 中	3年生	秋田 夕菜さん	「日常の中で」
南 姫 中	3年生	片岡 萌衣さん	なりたい私
笠 原 中	3年生	清水 璃音さん	「普通」とは

◇最優秀賞を受賞した多治見中の吉田 佳保さんは東濃地区大会に出場します。自信をもって力を発揮してほしいと願います。

ICT 活用指導力の向上をめざす教員研修

教育長訪問が本格的に始まりました。これまで、笠原中学校、笠原小学校、池田小学校、精華小学校、養正小学校を訪問しました。



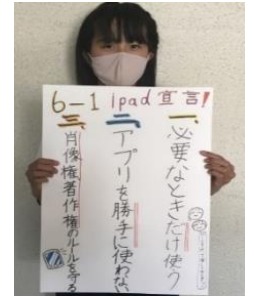
発芽の様子を撮影する様子

どの学校においても明るく元気に活動する子ども達の姿をたくさん目にすることができました。また、授業では、児童生徒がタブレットを活用する場面をたくさん目にすることができました。訪問の機会を、日頃の取組の発表の場と捉える前向きな姿勢をうれしく思いました。今後も、学校現場が GIGA スクールを



iPad の扱い方を研修する様子

主体的に推進できるように、多治見市教育研究所が中心となって ICT の活用に関する研修会を実施しています。この6月には、各学校の情報主任等の ICT 活用を中心になって担当する教員に対するオンライン研修を3回計画し2回実施したところです。研修の主な内容としては、「ロイロノート」の設定の仕方や、基本的な使い方を具体的に伝達するものでした。また、市内の ICT 推進校の実践事例を紹介したり、各学校の活用状況や、運用上生じてきた課題について情報交流したりしました。時間も45分程度で実施することで負担なくできるようにしています。研修を受けた教員が、自校の教員に対して「ミニ研修」を実施してもらえることを願っています。



iPad の約束を発表する姿

学びを保障するための対応の変更

「新型コロナウイルスまん延防止等重点措置区域」指定が6月20日まで継続になり、感染状況も依然として厳しい日々が続く、児童生徒が濃厚接触者として PCR 検査を受検するという連絡も増えました。まさしく「いつ、誰が感染してもおかしくない。」状況が続きました。

こうした状況を踏まえて、多治見市教育委員会は、児童生徒の命や健康を守りながら、学びの保障をしていくためにはどうしたらよいかを保健所等との協議を通して総合的に判断し、感染症が判明した際の対応を、この6月から次のように変更しました。

『児童生徒に感染が判明し、感染の恐れがある接触者の PCR 検査受検者が発生した場合、一律に全校の臨時休業を行わず、PCR 検査受検者の出席停止、学級閉鎖等の対応とし、学校の教育活動は継続し、学びの保障を行う。』というものです。

6月1日に感染が判明した市内小学校は、学級閉鎖と出席停止の対応になり学校の教育活動は継続することができました。学校では、翌日の登校後、校長先生が全校放送をするなど「コロナハラスメント」防止にも配慮して、子ども達の心のケアにも努めています。

